



会話におけるフィラー「なんか」の機能(二〇一三年 度卒業論文要旨集)

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2014-11-11 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 尾美, 彩奈 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.32150/00007456

会話におけるファイラー「なんか」の機能

日本語学研究室 ○四二七 尾美 彩奈

本研究は、若者の会話で出現するファイラー「なんか」の機能を五つに分類し、「なんか」の使用に影響を与えると考えた三つの文脈以外の要素（「話し手の性別」「会話に参加している人数」「話し手の心情」との関係について明らかにすることを目的とした。調査には、若者の日常生活の様子を記録したテレビ番組「テラスハウス」を資料として使用した。

ファイラー「なんか」の機能を、先行研究を参考にし、話し手寄りか聞き手寄りかという観点で、「話し手中心型」「聞き手意識型」「聞き手中心型」の三つに分けた。さらに、「間つなぎ」「話し手中心型」、「注意喚起」「発話権保持」（聞き手意識型）、「不明確さの表明」「曖昧化」（聞き手中心型）の五つに細分した。

分析の結果、女性は男性よりも「注意喚起」の「なんか」を多く用いており、「話し手の性別」による使用の差があることが分かった。また、言葉を選んで話している場面では、「曖昧化」の占める割合が高く、そうではない通常の場面では、「注意喚起」の割合が高く「曖昧化」の割合は低く、「話し手の心情」との関係があると考えた。「会話に参加している人数」との関係については、特に傾向を明らかにすることができなかった。

本研究では、先行研究にはない新たな視点で分析し、「なんか」の機能と文脈以外の要素との関係を示すことができた。